

B-Bridge International の活動と徳島大学との連携

B-Bridge International, Inc.

CEO & President

梶本博之



1. B-Bridge International について

B-Bridgeの「B」はBiotechのBであり、2000年2月の開設から一貫して「頑張れニッポン」を目指して活動して参りました。日本とアメリカのビジネス文化の違いは何であるかと考えた時、Made In USAは、合理性、柔軟性、迅速性において優れていると感じます。一方で、Made In Japanには、伝統的に品質の高さが象徴されるかと思われまます。世界に目を向けて、日本の技術や産業をより一層発展させるためには、この米国の持つインフラと日本の持つ品質の高さを融合するのが最も確かな方法であると感じてならないのです。自身の経験から、まずはバイオテックの研究分野に特化して、この融合を行って参りました。具体的には、

- 1) 米国の進んだバイオ研究試薬の日本への紹介、しかもユニークな販売ルートを使って実施し、日本の研究者の方にもスピードを持った研究をサポートしてきました。
- 2) 日本のベンチャーを中心とした開発試薬製品の米国への紹介も行い、
- 3) 日本の技術者やベンチャーにアメリカのインフラを提供するインキュベーション等も行い、
- 4) 近年では、アメリカの簡易脳波計の技術をもとに、種々の産業に役立つ脳波を測定することによる、新たなビジネスの展開を実施しております。

これによって、バイオテックの「B」とどまらず、ビジネスの「B」に成長させるべく努力精進を行っております。



▲ B-Bridge Internationalのスタッフ

2. 技術移転に関わるようになった経緯

上述の通り、日本の技術を世界に紹介するには、アメリカのインフラを利用するのが良いと考え、当初(2006年から)はJETRO(日本貿易振興機構:経済産業省の外郭団体)と連携して、日本のバイオテックベンチャーのアメリカインフラを利用したインキュベーションサービスを行って参りました。日本に大学発ベンチャーが多く誕生したことも一つの理由です。一方で、思ったほど育つことのないベンチャー発展の現状に、このベンチャーインキュベーションプログラムに参加する勇気をもった会社も減って参りました。そこで、ベンチャーから大学に戻った先生方の支援を行う形から、現在の大学の知財や技術を紹介する流れに変わり、技術紹介専用のウェブサイト(www.b-bridgetechnologies.com)を使って日本の大学発技術の紹介を始めました。

3. 日本の大学等との連携

B-Bridge Internationalでは、米国に足場があるという強みを活かして、日本の大学やTLOの技術移転活動を支援しています。現在では、徳島大学をはじめ、金沢大学、東京理科大学、立命館大学など、およそ20の大学の知財や技術を紹介するまでに連携の輪が広がっています。

徳島大学とはご縁があり、昨年度より技術紹介を実施しつつ、連携の方向性について双方で協議を続けて参りました。その成果が実って、このたび「徳島大学シリコンバレーオフィス」を弊社内に設置することになりました。

4. B-Bridge Internationalの技術移転活動

日本では名の通った大学でも、「海外の舞台」ですと、外国の方や企業は、日本の大学事情や名前すらも知らないケースは多く存在します。我々は、大学に拘らない、技術を優先した紹介を実施しています。基本的には、まずは、日本の大学の知財や技術を専用サイトに掲載し、その登録メンバーとして海外の企業の担当者の参

加を促し、新たな技術に関しての情報を提供し続けます。特に探索・検索の多い項目の技術に関しては、特化した項目に関連する技術を取りまとめ、メールなどで紹介するサービスを実施中です。

バイオ技術を使った日本の大学創薬技術の米国への移転に関しては、残念ながら非常にまれなケースとなっています。ただし、米国のベンチャーが日本のシーズを受け、当地でそのシーズを利用して起業するというケースは少なくありません。B-Bridge Internationalでは、今後の技術移転の対象として、米国ベンチャー創設を考える起業家やVC (Venture Capital) をメインターゲットにしたいと考えています。

また、技術を紹介する上では、技術そのものの魅力もさることながら、ニーズへの展開を考えたマーケティング戦略を考察して技術紹介を行うことが必要と考えます。

弊社としては、日本の品質の良さを伝えることを一つのミッションと考えていますので、先生方の技術開拓にささげる心を、よりマーケットに合うものに創造していく努力を共に行っていきたくと考えています。単純な技術の紹介にとどまらず、アメリカの技術との融合、アメリカ企業とのコラボレーション、又日本の企業を交えての産学連携も視野に入れ、先生方や徳島の企業との発展形を考案して参りたいと思います。

5. 小型脳波計説明会の開催

弊社では、前述の通り、米国製の簡易脳波計を取り扱っています。徳島大学産学官連携推進部のスタッフの方との意見交換の際に、この製品を紹介したところ、「非常に面白い技術。いろいろな研究に利用できる可能性がある。ぜひ徳島大学で説明会を開催してほしい」との依頼がありました。そこで、徳島大学との連携の一環として、4月25日(月)、徳島大学常三島キャンパスの産学官連携プラザにおいて、午前と午後の2回、説明会を開催しました(2回とも同じ内容)。計画段階では、参加者は10名程度だろうと産学官連携推進部の方と話していたのですが、当日の出席者は午前・午後を合わせて約40名を数えました。どうしても都合が合わず、後でビデオを見たいとリクエストされた研究者も何人かいらっしゃるとお聞きしました。説明終了後には、聴講者の方から、引きも切らないぐらい多数の質問がありました。徳島大学の研究者の方々の新しい技術に対する好奇心、研究に対する熱い思いを感じております。小型脳波計が研究者の方々のご研究に少しでもお役に立つことを願っています。将来的には研究者の方々と弊社とのコラボができれば最高です。

〔小型脳波計の概要〕

小型脳波計は米国のNeuroSkyというベンチャー企業が開発した製品である。センサ部(電極、処理チップ、Bluetooth送信機及び電池を含む)は非常にコンパクトでUSBメモリ程度の大きさ、重量も30gと超軽量である。プローブ電極は1つだけであるが、多数の電極を頭に装着する本格的な医療用脳波計に劣らぬ精度を持つ優れたもの。計測した脳波は、処理チップでバックグラウンドノイズの除去、解析処理を行った後、Bluetoothによりパソコンに信号伝送され、表示及び保存等が行われる。B-Bridge Internationalでは、NeuroSkyが開発したMindsetというヘッドホン型脳波計のほか、当該技術をベースに自社で開発したサンバイザ型脳波計を取り扱っている。サンバイザ型は、鉢巻き型やキャップ型など、用途に応じて自由に変更できるので、利用の柔軟性が非常に高い。



▲ サンバイザ型脳波計



▲ ヘッドホン型脳波計



▲ 小型脳波計説明会